

令和3年度 常葉大学教育学部附属橘小学校 学校評価書

学校教育目標 「生きる力を互いに高めあう児童の育成～三方よしの実践を通して～」

本校の学校評価の項目

- 1 重点目標に関すること
- 2 指導部に関すること
- 3 特色ある教育に関すること
- 4 その他の重点項目について

1 重点目標に関すること 5：大変よくできた 4：よくできた 3：できた 2：あまりできなかった 1：大変できなかった

評価項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
<p>☆ 確かな学力 (田原)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能を身に付けた児童 ・思考力・判断力・表現力等の能力を付けた児童 ・主体的に学習に取り組む態度が身に付いた児童 <p>【学校説明】基礎的な知識技能をつけようと努力しているが、なかなか定着が図れていない。学年が進むにつれて個人差が大きくなる。主体的に学習に取り組む態度を身につけるのは難しい。</p>	2.9	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な取り組み(学びに向かう力)は幼児教育から後期中等教育まで貫く資質・能力の大切な要素であるので、今後も工夫改善しながら取り組みたい。 ・タブレット等を使い新しい学習方法を工夫していると思う。改善策の話し合い活動の交流はコロナ禍で難しいとは思いますが、コミュニケーションが少なくなっているのもとても大切なことだと思います。
<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導(タブレットを含めた)やカードを活用し基礎基本の徹底を図り、活用・応用につなげる指導を行う。 ・話し合い活動など交流による学力向上の実践を行う。児童の把握と共に「主体的に取り組む姿」の具体化を図る。 			
<p>☆ たくましい心身 (山本祐)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付けた児童 ・体力の向上を図り、健康で安全な生活ができる児童 <p>【学校説明】朝御飯を食べてこなかったり、給食で好き嫌いをしたりする児童がいる。休み時間、授業時間のけじめがつかない児童がいる。遊具での遊びの中で力が弱い感じがする。</p>	3.7	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての活動の源である「食」に関する認識は、是非高めたい内容だと思ふ。 ・家庭学習の習慣が多くの子でできていると感じます。 ・新しい生活様式と絡めながら、自己の健康意識を高めていく指導が大切です。家庭状況が個々違うのでなかなか大変な部分がありますが。 ・基本的な生活習慣を身につけさせるには家庭の協力が必要で、様々な家庭環境、考え方があつた中では限界があると感じる。
<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な食生活を習慣化してけるように各種便りや懇談会等を通じ家庭に伝える。 ・あいさつ、時間のけじめを含め基本的な生活習慣を低学年のうちから意識的に習慣化させる。 ・心身を強くしていくための指導を意識的に各学年の体育等で取り入れていく。 			
<p>☆ 豊かな心 (山本祐)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の身になって考え・行動できる児童 ・協力して温かな人間関係を作ることのできる児童 ・感動する心をもった児童 <p>【学校説明】総じて、「道徳」ではどうすべきかを考えることはできるが行動へはつながらない児童が多い。低学年では、口調がきつい子、相手の身になって考えることができない児童などがいるが、学年が進むにつれて協力して取り組んだりクラスや学年をまとめたりの児童が多い。</p>	3.0	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が進むにつれて、子供たちの成長が確認できるということは素晴らしいことだと思ふ。 ・三方よしの精神はとても大切なことだと思ふました(コロナ禍にあつて)。子供にもわかりやすい言葉だと思ふました。 ・高学年において一部児童同士の対立があると聞いています。 ・道徳性の育成は授業だけではなかなか思ふようにはなりません。と言つても、今求められている「考え、議論する」の議論がされるような授業構想を工夫していく必要性を感じます。交友関係が限られている中、他校との遠隔交流授業も面白いかもしれせん。
<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳」や読書を通して相手の心づかいの大切さを伝えていく。 ・自分の主張だけでなくみんなの意見を尊重できるように話し合い活動を通じて学ばせる。 ・「道徳」や「学級活動」で事例を通してソーシャルスキルを指導し協力するよさを実感させる。 			

重点目標
(田原)
(山本祐)

2 各指導部に関すること

	評価項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
学習指導 (田原)	<p>☆ 学習指導 学びの基本をしっかりと身に付ける。「聴いて・話して・つなげよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な内容を正しくききとる、伝える、つなげる。(ビンゴの活用) ・学習態度の基本を押さえる。(場に応じた声の大きさ、授業準備など) ・学力差をなくす。(基礎基本を身に付ける小テスト、個別指導など) ・家庭学習を習慣づける。 <p>【学校説明】学力調査の分析、考察をした後の活用がなされていない。話の聞き方に課題がある。学力の差が気になる。</p>	2.9	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・私の勤務する園でも職員共通認識での取り組みとして「聞く」ことの大切さを子供たちに指導している。「聞く」力の向上に向け是非取り組みを進めたい。
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の分析、考察の報告書を作成する。これらを全教員で共有し保護者にも伝え、のちの取り組みを学習指導部が報告する。 ・「学びの基本をしっかりとつける」ために個別指導、家庭指導を行い基礎基本を徹底する。 ・聴く、話すといった基本的な部分の徹底と交流場面を設定し、児童がふりかえる場を設定する。 			
	<p>☆ 図書館指導 学校図書館への期待感をもたせ、良い図書館利用者の基礎を育てる。</p> <p>「行きたい図書館、使える図書館」「つながる読書、つなげる読書」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読むことの楽しさを知り読書を習慣化する。 ・図書館情報を活用し、自分の課題や疑問を解決する力を身に付ける。 <p>【学校説明】喜んで図書室を利用している児童が多い。ビブリオバトルに参加して本を紹介したい児童が増えてきている。読書の習慣がついている児童が多い。学校司書が工夫をして本に興味を持ってよう働きかけている。</p>	4.6	5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の習慣が多くの子供たちについているという評価は素晴らしいことだと考える。 ・図書館や校内に本への興味が膨らむ工夫がたくさんされていると思いました。 ・図書室を利用している児童が多い。図書担当者とのコミュニケーションがよく行われていると思います。 ・一度の訪問でしたが、温かみのある空間を感じました。その環境が子供たちにとって足を運びたいという思いを生み、結果として読書好きの子になっていくのだと思いました。 ・読書や図書館利用の啓発指導が継続的に行われており、効果が表れていると感じる。
<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の活動を継続していく。学校司書と共に担任も読書指導をしていく。 				
生活指導 (山本祐)	<p>☆ 生活指導 基本的な生活習慣が当たり前ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔(橋スマイル)で挨拶する。 ・校内では静かに歩く。 ・黙って集合、黙って解散する。 ・校内美化に努める。 ・丁寧な言葉遣いができる。 <p>【学校説明】階段やオープンスペースなど走ってしまう児童がいる。気持ちのよい挨拶ができる児童がいる。トイレのスリッパの整頓が悪い時がある。</p>	2.8	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・しつけは、全教師、保護者の姿勢が大きく影響するが、そのほか、児童同士の声掛けや掲示物による啓発も効果があると思われる。
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや言葉遣い、スリッパをそろえることなど、児童が進んでできるように指導をしていく。 ・前・後期のめあてや月の生活目標など、児童と振り返りをする機会を持って次により現れや課題を次につなげられるようにする。 			
	<p>☆ 交通安全・防災指導 どこにいても自分の身は自分で守れるよう行動できる態度と能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導員の協力の下、交通安全教室を実施する。 ・スクールバス、J R、徒歩、送迎による登下校の指導を行う。 ・火災、地震の避難訓練を行い災害時に備える。 ・不審者対応訓練及びそれに関する研修を行う。 <p>【学校説明】コロナ禍でスクールバスの乗り方について指導したため大きなトラブルがなかった。不審者対応訓練に警察の方が入ったのでより効果的だった。下校指導の時期に偏りがあった。</p>	3.9	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤時、スクールバスを待つ児童を見かけますが、安全に気を付けて皆一列で待つ様子を学校の指導が身に付いていると感じました。 ・スクールバス、自家用車での通学が多い環境で、「自分を守る交通安全」の実践が公立学校の児童より足りないと感じます。 ・子供の安全意識を高めるとともに教職員の意識向上が大切だと常に思っています。学校というところは安全だとの思い込みが強い。警察との連携はとてもよいと思います。
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の下校指導の時期を調整して効果的に指導できるようにする。 ・下校指導は実態に応じて、交通安全や防犯の本を読み聞かせするなどの工夫を取り入れる。 ・入校証をしっかりとつけて、学校に出入りしてもらうことを年度初めに保護者に周知する。 			
<p>☆ 給食指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する望ましい習慣を身に付ける。 ・会食をして望ましいマナーを身に付ける。 ・食事や栄養について正しい理解を深める。 <p>【学校説明】コロナ禍で黙食がよくなりました。偏食する児童、残す児童がいる。</p>	3.5	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対応でやむを得ないが、楽しい会食ができない子供たちの姿がづらい。 ・はやく、楽しい会食ができるようになってほしいです。 ・コロナ禍において児童に黙食指導が徹底できたことは大きな成果だと感じる。 	
<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の好き嫌い、偏食が目立ってきている。家庭とも連携をしながら少しずつでも改善できるように指導する。 ・食育指導とともに食事のマナーについても指導をしていく。 				
<p>☆ 清掃指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい清掃の仕方を身に付ける。 ・黙って働くことを通して学校をきれいにし、大切にしようという心を育む。 ・師弟同行に努める。 <p>【学校説明】黙って清掃する児童が増えている。ほうきはきき方、雑巾の絞り方など分かっていない児童がいる。</p>	3.4	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・校内がきれいで整理されており、落ち着いた学校生活ができる環境だと感じました。 	
<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黙働で掃除することを引き続き指導する。児童だけでも黙働ができるように習慣化を目指す。 ・掃除用具の管理、修繕を行い、用具の正しい使い方を指導する。 				
<p>☆ 保健指導 自分の身体に関心を持ち、心身共に健康な身体をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活をする。 ・外で元気に遊ぶ。 ・身体・衣類の清潔に努める。 ・身体と心のバランスについて学ぶ。 <p>【学校説明】外で元気に遊ぶ児童が多い。就寝時刻が遅い児童がいる。手洗い、消毒をしっかりとやっている。</p>	3.6	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・前項目から「食」についての認識が課題の一つと推察できるので、保健指導と関連付けて身体作りに取り組みさせたい。 ・校内で手洗い、消毒がしっかりとできている点は指導の成果であると感じる。 	
<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康的な生活習慣について、保健の指導以外でも指導をし、おたよりなどで家庭へも訴えていく。 				

特別活動 (池端)	<p>☆ 特別活動 楽しい学校を主体的につくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の取り組みを通して、挨拶・返事を徹底する。 ・「ありがとう」や「思いやり」の気持ちを育てる。 ・クラス、学校全体の団結力を高めることで豊かな人間関係をつくる。 <p>【学校説明】 コロナ禍の中、活動が制限されていたが、その中でできることを工夫して行ってきた。児童会を中心に挨拶運動を展開し、意識は高まってきている。ただ、個人差はある。児童集会で企画してる「橋っ子大会」でクラスの団結力が高まっている。</p>	3.5	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の成長発達や自己実現が集団の中で達成されつつある点が見えてくる。特活のねらいに沿ったものとして素晴らしいことだと思う。 ・教師の指導がなくてもほとんど行えるということが素晴らしいと思います。
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心に、挨拶運動を展開していくものと思われる。挨拶の他に、会釈や目礼なども身につけさせていく。 ・児童集会が教師の指導がほとんどなくても行える状態にあるので、教師側は児童の思いを尊重し、見守っていく。 			

3 特色ある教育に関すること

	評価項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
英語 (望月梓)	<p>☆ 英語に浸り、英語を楽しく使いながら、聞く、話す、読む、書く力をバランスよく各学年に応じ身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月ごとのテーマに基づいたコミュニケーション活動。 ・フォニックスを取り入れた文字と音の学習。 ・イギリスの絵本を使ったリーディング。 <p>【学校説明】 低学年では歌や踊りを取り入れた指導、高学年になると場面を設定した会話があり、話す機会が多く児童たちは楽しくやっている。</p>	4.1	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の指導に時間をかけることができるのは、私立ならではの強み。是非、特色あるプログラムを推進してほしいです。 ・児童の年齢に応じた英語教育の工夫がみられる。コロナが収束したら中高の先生方に授業見学の機会を与えていただけたらとありがたい。
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋小学校の目指す英語と、教科書の取り扱いについて、教員・保護者・在校生が把握できるよう手立てを考えていく。 			
オーケストラ (池上)	<p>☆ 感動するしなやかな心を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた演奏技術を身に付け、合奏する楽しさを味わう。 ・オーケストラ学習が、児童同士の良好な人間関係づくりに寄与する。 <p>【学校説明】 丁寧な指導で読譜や楽典の力が付いている。他の楽器の音を意識して他者と合わせようとする気持ちを感じられる。</p>	4.0	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会では演奏も聴き方も素晴らしかったです。 ・演奏ありきではなく、感性を育てるところに主眼を置いているのがよいと思います。 ・コロナ禍における楽器演奏（管楽器等）は様々な御苦労があったと推察される。実施したことに対し敬意を表したい。
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生から3年生にかけての楽器選択について、しっかり保護者にも説明をし、トラブルがないようにする。 ・楽器変更、アンサンブル発表会などについては授業者が案内する。 			
情報 (瀧)	<p>☆ 各教科等で活用できる情報活用技術等を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた情報活用技術、情報倫理、プレゼンテーション能力を身に付ける。 ・ミニロボやマイクロビット等を使用してプログラミング教育を行う。 <p>【学校説明】 タブレット導入に伴いその使用方法を指導した。また、ロイロノートの使用方法についても指導した。ゲーム作りを通してプログラミング学習の思考が身につけている。</p>	4.4	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を参観し様々な小学校を見たり聞いたりする中で橋小学校の情報教育は充実していると思いました。 ・情報の授業についても中高の先生方に授業見学をさせたい。
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報倫理については道徳、総合でも取り上げていく。 ・タブレットの家庭での使用ルール、故障、破損への対応、保険について明らかにしていく。 			
書写・書道 (佐野)	<p>☆ 書写で日本語の美しさに触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた書写技術を身に付け、日本文化の素晴らしさを体得することができる。 <p>【学校説明】 学年に応じた書写的技能の向上が見られた。高学年では、自分の書きたい文字の理想的な形を追求する児童も現れてきている。</p>	4.3	4.3	
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一層の書写的技能の向上を図る。 ・墨の文字の美しさに触れることで、書に対する関心を高める。 			

4 その他の重点項目について

	評価項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
コロナ対応 (二村)	<p>☆ 学校の新しい生活様式にそった生活ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスク着用 ・手指の消毒 ・3密を避ける <p>【学校説明】概ね、学校の新しい生活様式にそった生活はできた。マスク着用や手指消毒は徹底できたが、休み時間には密になることが多かった。</p>	3.8	4.3	
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員のみならず児童や保護者にも早めに情報を共有し周知徹底を図る。 ・マスク着用、手指の消毒、三密を避ける等を基本対策としほかにより方法があれば取り入れていく。 ・休み時間の過ごし方について工夫する。 			
	<p>☆ 各教科ごと感染対策をとって授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ、ペア活動は注意して行う。 ・家庭科、音楽、理科、オーケストラ学習は注意して行う。 <p>【学校説明】感染の危険が高いといわれる教科においても各教科部で提案された対応にそって授業ができ、概ね、感染対策を図ることができた。ロイロノートによる共有は有効だった。</p>	4.1	4.3	・学校説明から、コロナ禍でも子供たちの学習や経験の場を作ろうと工夫し授業を行っていることが分かりました。
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染が高いとされる教科（音楽、家庭科、体育等）においても各教科部で提案された対応の仕方にそって授業が行えたので来年度も継続する。 ・ソーシャルディスタンスや換気、手洗い・消毒、大きな声を出さない等の基本的な内容を全員で周知し、徹底する。 ・タブレットのロイロノートを活用して情報共有することでソーシャルディスタンスを保てる1つの方法なので次年度も活用する。 			
	<p>☆ 各行事、体験活動等は感染対策をとって行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉に全校児童が集まらない。 ・宿泊を伴う体験活動は宿泊先としっかり連絡を取り安全を確認して行う。 <p>【学校説明】リモートの朝礼、集会ができてよかった。宿泊体験活動でも学校生活と同じように手洗い、うがい、マスク着用など感染予防しながら行動できた。</p>	4.6	5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の一つ一つを一から見直し、検討を重ねる苦心の日々だったことと推察します。 ・来年度は一斉活動できる環境になることを期待します。 ・コロナ禍における学校行事等について様々な対策を講じながら工夫して行うことができています。
<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモートは感染防止に有効な手立てなので、静岡県の判断基準によって朝礼は分散かリモートで行うか判断する。 ・宿泊行事について、感染予防を図りながら所員や旅行会社と連絡を密にし、その状況でよい方法を模索しながら計画する。 				
研 修 (林)	<p>☆ 研究主題「自ら学び、共に追究する子の育成」をめざし組織的な研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究推進部が研究の方向性を出し研究全体の推進役を担う。 ・研究教科部が授業研究の推進役になる。 ・令和4年1月に授業研究発表会を行う。 <p>【学校説明】研究推進部から出される方向性を各研究会が理解し実践することができた。研究の際には、大学の先生と連携し研究を進めることができた。iPadの導入を受け各教科、ICT機器を活用して情報活用能力を高めることも意識して研究することができた。全教員で協力しコロナ禍でも授業研修会を実施することができた。</p>	3.9	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の火を消さない取り組みが評価できる。 ・小さな授業研究を互いに公開してWin-Winの関係を作りたいです。 ・コロナ禍でも研修を継続したこと、そして、研修で学んだことをきちんと現場（授業）に生かしている点は高く評価できる。
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回授業研究会の開催は令和5年度とする。 ・引き続き、大学の助言講師の先生と連携して教科研究を深める。大学の先生との連絡は、研究が円滑に進むように適切に行う。 			
	<p>☆ 教育学部と共同で研究を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究教科部が担当の大学教員と共に研究を行う。 <p>【学校説明】各教科、大学の先生から丁寧な指導を受け、研究授業や日々の授業に生かすことができた。理論だけでなく教材や教具も借りることができ先進的な授業を行うことができた。</p>	4.2	4.3	
<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究教科主任が中心となり、大学の助言講師の先生と連絡を取り合い、計画的に指導をいただく。 				
教員の資質 向上 (二村)	<p>☆ 研究発表会を開催し授業力の向上を図る。</p> <p>☆ 特別支援教育を要する児童への対応を充実させる。</p> <p>☆ ICTの推進を目指す。</p>	3.9	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援を要する児童の対応について関係機関との対応は今後も重要になると思います。対応が難しいとのことで特別支援を要する園児が転園してきます。本園では特別支援を要する園児が全体の2割となり、今後、教育現場ではさらに増えていくことが予想されます。教育学部の附属小学校として、特別支援を要する児童への対応を学生が学ぶ場としても、支援を要する児童の受け入れについて一歩踏み込んで考えていただけたいと思います。 ・タブレットの活用について職員同士で情報共有し、啓発し合えた点がよかった。 ・タブレットを使った授業は非常にスムーズで事前準備、研究されていると感じました。
	<p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係機関と連携し特別支援を要する児童の対応をしていく。 ・次年度もロイロノートを活用した取り組みを継続する。 ・1年生からカナ入力、3年生からはローマ字入力ができるように指導する。 			
児童募集 (二村)	<p>☆ 系列の両園との交流活動や保護者参観会等へのはたらきかけにより募集の拡大を図る。</p> <p>☆ 従来の方法とともにオンラインやホームページなどICTを活用した募集を展開する。</p>	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・系列以外にも積極的に訪問活動を行ってはいかがでしょうか。 ・児童募集の御苦労がうかがえる。SNSの活用は欠かせないものになっているので、募集担当同士で情報交換の機会を設けたい。
	<p>【学校説明】コロナ禍だったため、直接、交流はできなかったが、おたよりで児童募集について伝えた。対面の学校説明会ができなかったときはオンラインで行った。</p> <p>【次年度の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集については教頭が窓口になって仕事を進める。SNSを活用した募集活動を模索しながら、検討していく。 			